

引用文献

- 安藤幸子, 中田康夫, 渡邊恵, 片山京子, 渡辺智恵, 白井千津, 沼本教子, 吉永喜久恵, 中島美繪子. (1999). 阪神・淡路大震災で被災した仮設住宅住民の生活と健康実態及び継続的な看護支援活動の評価. 神戸市看護大学紀要, 3, 29-38.
- 大門大朗, 渥美公秀. (2018). 災害後の被災地における被災者と支援者の関係を考える: 2016 年熊本地震における災害ボランティアセンターの事例から. 災害と共生, 2(1), 25-32.
- 大門大朗, 渥美公秀. (2019). アメリカ災害社会科学の系譜と研究動向: 災害研究センター (DRC) を中心とした歴史背景から. 災害と共生, 2(2), 15-40.
- 藤岡孝志. (2016). 支援者支援学(1) 支援者支援学とは. こころの科学. 189.92-98.
- 藤澤美, 高橋真梨子, 畠山秀樹. (2014). 被災地における臨床心理学的地域援助実践の継続要因の検討. 岩手医科大学教養教育研究年報. (49).29-40.
- 藤田さかえ, 松下幸生, 佐久間寛之, 樋口進. (2017). 東日本大震災における久里浜医療センターの被災地報告. 日本アルコール関連問題学会雑誌. 19(2), 35-39.
- 藤原俊通. (2017). 支援者支援学(7) 救援活動後のケア. こころの科学. 195.93-96.
- 復興庁 (2018) 復興・創生期間後も対応が必要な課題の整理 [ウェブサイト].
[20181218_kadainoseiri.pdf \(reconstruction.go.jp\)](https://www.kadainoseiri.pdf) (検索日: 2021 年 11 月 14 日)
- 濱田由紀. (2015). 精神障害をもつ人のリカバリーにおけるピアサポートの意味. 日本看護科学会誌. 35, 215-224.
- 畠山卓也. (2013). 身近な熟練者から学んだ“技” 患者さんの傍に居ること. 精神科看護. 40 (4), 11-15.
- 畑中美穂, 松井豊, 丸山晋, 小西聖子, 高塚雄介. (2004). 日本の消防職員における外傷性ストレス. トラウマティック・ストレス. 2 (1). 67-75.
- 原田奈穂子, 新福洋子, 重村淳, 安酸史子. (2014). 東日本大震災における医療系民間ボランティア団体現地派遣員の活動内容と活動期間と帰任後の心理状態. 日本保健医療行動科学会雑誌 29 (1), 2014 40-47
- 原田奈穂子, 山上実紀, 林健太郎, 若林英樹, 大橋博樹. (2015). 日本プライマリ・ケア連合学会東日本大震災支援プロジェクトによるプライマリ・ケアレベルでの精神保健・心理社会的な支援 活動内容と課題点. 日本災害医学会雑誌. 20 (1). 64-70.
- 早瀬昇. (2018). 「参加の力」が創る共生社会. ミネルヴァ書房, 京都.

訪問看護財団 (2021) 日本の訪問看護のしくみ [ウェブサイト] .

Structure_of_the_Visiting_Nursing_system_in_Japan_JP.pdf (jvnf.or.jp) (検索日 : 2022
年 1 月 11 日)

井伊久美子. (1999). 被災者の生活立て直しへの援助. 看護研究. 32(3). 187-195.

池西静江. (2020). 指定規則改正で強化が求められる「地域・在宅看護論」. 看護教育. 61(7),
548-545.

伊藤亜希子. (2020). 多職種アウトリーチ型の災害メンタルヘルス支援 : 東日本大震災後
の岩手県大槌町における長期的な NPO 活動から. 社会福祉(60) , 83-92.

伊藤忠弘. (2011). ボランティア活動の動機の検討. 学習院大学文学部研究年報, 35-55.

金杉和夫. (2016). 3 年間の支援活動を振り返って. 病院・地域精神医学. 58 (2), 179-181.

金子郁容. (1992). ボランティア もうひとつの情報社会. 岩波新書. 東京.

加藤寛. (2013). 大災害後の支援者支援. 精神医学, 55(10), 1011-1016.

加藤寛, 飛鳥井望. (2004). 災害救援者の心理的影響 阪神・淡路大震災で活動した消防
隊員の大規模調査から. トラウマティック・ストレス. 2 (1), 51-59.

河合直樹, 永田素彦. (2016). 「復興といわない」復興支援 一岩手県野田村における書道
教室のアクションリサーチ 一集団力学, 33, 25-48.

川上憲人. (2015). 第 3 章 災害支援者に対する心のケア. 似田貝香門, 吉原直樹 (編)
震災と市民 2 支援とケア, 55-72, 東京大学出版会, 東京.

警察庁 (2021). 平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震の警察活動と被害状況 [ウ
ェブサイト] . higaijokyo.pdf (npa.go.jp) (検索日 : 2021 年 11 月 14 日)

奇恵英. (2019). 東日本大震災の長期的影響と臨床心理学的支援に関する研究 II :復興プロセ
スの中でメンタルヘルスに影響する要因の検討. 福岡女学院大学大学院 臨床心理学紀
要. (16), 25-33.

木原キヨ子, 丸山知子, 今野美紀, 杉山厚子, 石塚百合子, 吉田安子. (2003). 在宅療養中の
子どもをもつ家族へのボランティア活動によるレスパイトケア. 札幌医科大学保健医療
学部紀要. (6) , 79-86.

木下康仁. (2007). ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法. 弘文堂, 東京.

河野眞, 森下賀子. (2017). コミュニティの再構築に向けたリハビリテーション. 日本災
害医学会誌, 22 (2), 199-204.

黒田裕子. (2007). 地域の中で考える災害看護. コミュニティケア. 9 (10), 12-18.

- 前田潤. (2017). 支援者の心理の理解と援助. 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美 (編), ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③第4版 (pp.156-157). メディカ出版.
- 松井芽衣子. (2021). 精神障害者が地域生活支援事業においてピアサポートを行う体験. 日本社会精神医学会誌. 30, 129-140.
- 松山毅. (1999). 社会参加の質と福祉教育の価値に関する考察. 日本福祉教育・ボランティア学習学会年報, 60-81.
- 南裕子. (2006). 災害が発端となった学問分野の台頭 災害看護学の誕生と動向. 学術の動向 5, 76-78.
- 宮地尚子. (2011) 震災トラウマと復興ストレス. 岩波ブックレット, 東京.
- 宮垣元. (2020). その後のボランティア元年 NPO・25年の検証. 晃洋書房, 京都.
- 村上典子, 東智子. (2019). 第2章災害看護学 F 災害とこころのケア. 浦田喜久子 (編) 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学. 182-189.
- 村松静子, 守田美奈子, 松沼瑠美子, 山田京子. (1987). 産声を上げた訪問看護・ボランティアチーム. 看護学雑誌, 51(4). 322-325.
- 室崎益輝. (2015) 第2章 被災地は安全になったのか. 神戸大学震災復興支援プラットフォーム編 震災復興学, 38-39, ミネルヴァ書房, 京都.
- 長峯正典. (2017). 支援者支援学(6) 救援活動中のケア. こころの科学. 194.117-121.
- 内閣府 (2011) 平成23年度国民生活選好度調査 [ウェブサイト] [23senkou_03.pdf](https://www.ndl.go.jp/23senkou_03.pdf) (ndl.go.jp) (検索日: 2022年1月11日)
- 内閣府 (2018) 中央防災会議 南海トラフ地震防災対策推進基本計画 [ウェブサイト] [nankaitrough_keikaku.pdf](https://www.bousai.go.jp/nankaitrough_keikaku.pdf) (bousai.go.jp) (検索日: 2021年11月14日)
- 内閣府 (2020) 令和元年度 市民の社会貢献に関する実態調査報告書 [ウェブサイト] [r-1_houkokusyo.pdf](https://www.npo-homepage.go.jp/r-1_houkokusyo.pdf) (npo-homepage.go.jp) (検索日: 2022年1月11日)
- 中信利恵子, 山田覚. (2009). 災害看護の体験が看護者に及ぼす影響と体験の意味づけ. 日本災害看護学会誌, 11 (2), 43-58.
- 仁平典宏 (2005). ボランティア活動とネオリベリズムの共振問題を再考する. 社会学評論, 56(2), 485-499.
- 仁平典宏. (2011). ボランティアの誕生と終焉. 名古屋大学出版会, 愛知.
- 日本看護協会 (2015). 2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン [ウェブサイト] [A4-1C_校了.indd](https://www.nurse.or.jp/A4-1C_校了.indd) (nurse.or.jp) (検索日: 2022年1月14日)

- 日本看護協会(n.d) 災害看護 災害支援ナースとは [ウェブサイト]
<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/saigai/index.html> (検索日：2021 年 11 月 14 日)
- 日本災害看護学会(n.d) 日本災害看護学会設立の趣意 [ウェブサイト] 日本災害看護学会設立の趣意 | 日本災害看護学会 (jsdn.gr.jp) (検索日：2022 年 1 月 14 日)
- 似田貝香門. (2012). 医療職がボランティアをするということ. 看護管理, 22 (1), 50-51.
- 似田貝香門. (2015) はじめに. 似田貝香門, 吉原直樹 (編) 震災と市民 2 支援とケア, 55-72, 東京大学出版会.
- Noguchi., Miyoshi, M., Watanabe., Fujioka, T. (2017). Stressors in Disaster Social Work after the Great East Japan Earthquake: An Exploratory Study. Journal of Sociology and Social Work December .5, (2), 41-46.
- 野口代. (2018). 支援者支援学(11) 被災地における支援者支援:中・長期的な心のケアに焦点を当てて. こころの科学. 199.120-125.
- 野口恭子, 勝原裕美子, 鈴木恵理子, 番匠千佳子, ウィリアムソン彰子, 小笹由香, 小島操子, 細見明代. (2017). 東日本大震災被災地へ支援のために派遣された看護師が感じた倫理課題. 日本看護倫理学会誌. 9(1), 38-44.
- 小栗俊之. (2000) . ボランティア行動における動機づけ理論. 文京女子大学研究紀要, 2 (1), 79-100.
- 小原真理子.(2012) 第 7 章 災害看護の発展に向けて. 小原真理子, 酒井明子(監修) 災害看護, 242-243.
- 岡部みどり, 根本真奈, 井上道彦, 内野誠, 金杉和夫. (2016). 復興支援活動報告：この 3 年を振り返って、今思うこと. 病院・地域精神医学. 58 (2), 163-165.
- 大川浩子, 本多俊紀. (2015). 支援者にとってのリカバリー. 北海道文教大学研究紀要(39), 93-100.
- 大野かおり. (2014)：自然災害後の長期的看護支援モデルの構築, 科学研究費助成事業研究成果報告書 (課題番号 23593204).
- 小山田晋, 長谷部正, 小谷忍, 安江紘幸, 伊藤まき子. (2012). 東日本大震災被災地復興に対するよそ者のかかわり方に関する倫理学的研究. 農業経済研究報告号 43, 15-36.
- Raphael.B.(1986/1989). 石丸正 (訳), 災害の襲うとき. みすず書房.

- 西郷達雄, 中島俊, 小川さやか, 田山淳. (2013). 東日本大震災における災害医療支援者の外傷後ストレス症状:侵入的想起症状に対するコントロール可能性と外傷後ストレス症状との関連. 行動医学研究. 19 (1), 3-10.
- 桜井政成. (2002). 複数動機アプローチによるボランティア参加動機構造の分析. ノンプロフィット・レビュー. 2 (2), 111-122.
- 佐々木晶世, 柏崎郁子, 佐藤里奈, 叶谷由佳. (2020). 東日本大震災被災地における支援者の心的外傷後成長 (PTG) への変容過程. 日本健康医学会雑誌. 29(3), 363-369.
- 佐々木吉子. (2021). 災害支援ナースの 10 年. 救急医学. 45(3), 296-301.
- Sato, M., Atogami, F., Nakamura, Y., Yoshizawa, T., (2016). Experiences of public health nurses in remote communities during the Great East Japan Earthquake. *Health Emergency and Disaster Nursing* .3, 18-27
- 佐藤美穂子. (2017). 東日本大震災から 5 年間の看護師による健康支援活動. コミュニティケア. 19(1). 60-63.
- 渋川智明. (2007). 福祉 NPO 地域を支える市民企業. 岩波新書, 東京.
- 重村淳, 金吉晴. (2011). 災害救援者・支援者メンタルヘルス・マニュアル [ウェブサイト] . https://www.ncnp.go.jp/pdf/mental_info_saigai_manual.pdf (検索日: 2021 年 11 月 14 日)
- 清水邦夫. (2017). 支援者支援学(5). 救援活動前の準備:教育と訓練を中心に. こころの科学. 193.124-129.
- 新福洋子, 原田奈穂子. (2015). 東日本大震災における災害医療支援者の心理状況. 聖路加看護学会誌. 18 (2), 14-22.
- 塩崎賢明. (2015) . 序章 震災復興学に向けて. 神戸大学震災復興支援プラットフォーム編 震災復興学, 1-12, ミネルヴァ書房, 京都.
- 菅原亜希, 霜山真, 高橋和子, 勝沼志保里, 佐々木久美子, 吉田俊子. (2020). 東日本大震災被災者の災害公営住宅への移行期に おける健康相談内容の変化と支援の課題. 日本災害看護学会誌. 21(3). 64-74.
- 杉田浩崇. (2021) . ただ居ることの難しさ. 看護教育. 62(6) , 578-581.
- 鈴木順. (2017). 東日本大震災での経験を通して感じたこと、考えたこと. 心身医学, 57(3), 234-241.
- 鈴木達也, 寺裏寛之, 間辺利江, 小谷和彦. (2019). 地域の保健室に関する文献的検討. 自治

- 医科大学紀要. 42, 47-56.
- 高林澄子. (1982). 看護ボランティアとコミュニティケア. 看護学雑誌, 46 (6), 639-644.
- 高橋晶. (2017). 支援者支援学(8) 支援者・救援者に対するフォローアップ. こころの科学. 196.113-119.
- 高橋祥友.(2016). 支援者支援学(2) 支援者支援のメンタルヘルスの原則. こころの科学. 190.92-96.
- 高橋祥友.(2018). 支援者支援学(12) 支援者が燃え尽きては支援活動は進まない. こころの科学. 200.177-181.
- 田辺有理子, 中田信枝, 長谷川朝穂, 鈴木満. (2018). 岩手県大槌町における長期コミュニティ支援: 東日本大震災被災地支援プロジェクト報告 2017. 精神科救急. 21, 7-10.
- 田中泰雄. (2015). 第 15 章 世界の自然災害と国際防災協力. 神戸大学震災復興支援プラットフォーム編 震災復興学, 215-217, ミネルヴァ書房, 京都.
- 東畑開人. (2019). 居るのはつらいよ. 医学書院, 東京.
- 内野小百合. (2018). 東日本大震災において派遣された陸上自衛隊員のレジリエンス (第 2 報): 災害派遣が自信獲得と再生のきっかけとなった A 氏の語り. 防医大誌, 43 (3), 114-127.
- 内尾太一. (2013). 東日本大震災の公共人類学事始ー宮城県三陸地方における被災地支援の現場から. 文化人類学, 78 (1), 99-110.
- 内尾太一. (2018). 復興と尊厳 震災後を生きる南三陸町の軌跡. 東京大学出版会, 東京.
- Ueda, I, Sakuma A, Takahashi Y, Shoji W, Nagao A, Abe M, Suzuki Y, Matsuoka, Matsumoto K (2017). Criticism by community people and poor workplace communication as risk factors for the mental health of local welfare workers after the Great East Japan Earthquake: A cross-sectional study. *PLOS ONE*, 12(11), <https://dx.doi.org/10.1371/journal.pone.0185930>
- 上野まり, 渋谷得江, 岡村圭子, 佐藤美穂子. (2016). 看護職による応急仮設住宅に暮らす住民へのアウトリーチ: 東日本大震災から 18 ヶ月後の調査結果から. 千葉大学大学院看護学研究科紀要(38), 75-80.
- Ulmer, L. D. (2017). Theoretical explanations of nurses' decisions to volunteer. *Health Emergency and Disaster Nursing (2017)* 4, 39-48
- 八木淳子. (2017). 子どものトラウマ関連障害の治療: 東日本大震災後中長期のいわてこど

- もケアセンターにおける実践から．児童青年精神医学とその近接領域. 58(5), 700-708.
- 山田晴美, 久住眞理, 吉田浩子, 大東俊一, 青木清. (2013). 東日本大震災の災害支援活動に派遣された保健師の心身の健康に関する調査. 心身健康科学. 9 (1), 26-36.
- 山田晴美, 山口一郎, 吉田浩子, 青木清. (2015). 東日本大震災の被災地に派遣された保健師の心身の健康とメンタルヘルス対策に関する調査. 保健師ジャーナル, 71(2) ,140-147.
- 山中浩嗣. (2019). 被災地長期メンタルヘルス支援の意義と課題－岩手県沿岸部大槌町におけるアウトリーチ型支援の取り組み. 精神科救急, 22 (3), 13-16.
- 山本あい子. (2006). 災害と人々の健康と看護. 日本看護科学学会誌. 26(1), 56-61.
- 山本あい子. (2011). 災害とジェンダー. 学術の動向 8, 76-79.
- 山下祐介. (2013). 東北発の震災論－周辺から広域システムを考える. 筑摩書房, 東京.
- 安島進市郎. (2005). ボランティアの共感と使命感: 先駆的ボランティア団体の事例から. 一橋研究, 30(2), 15-26.